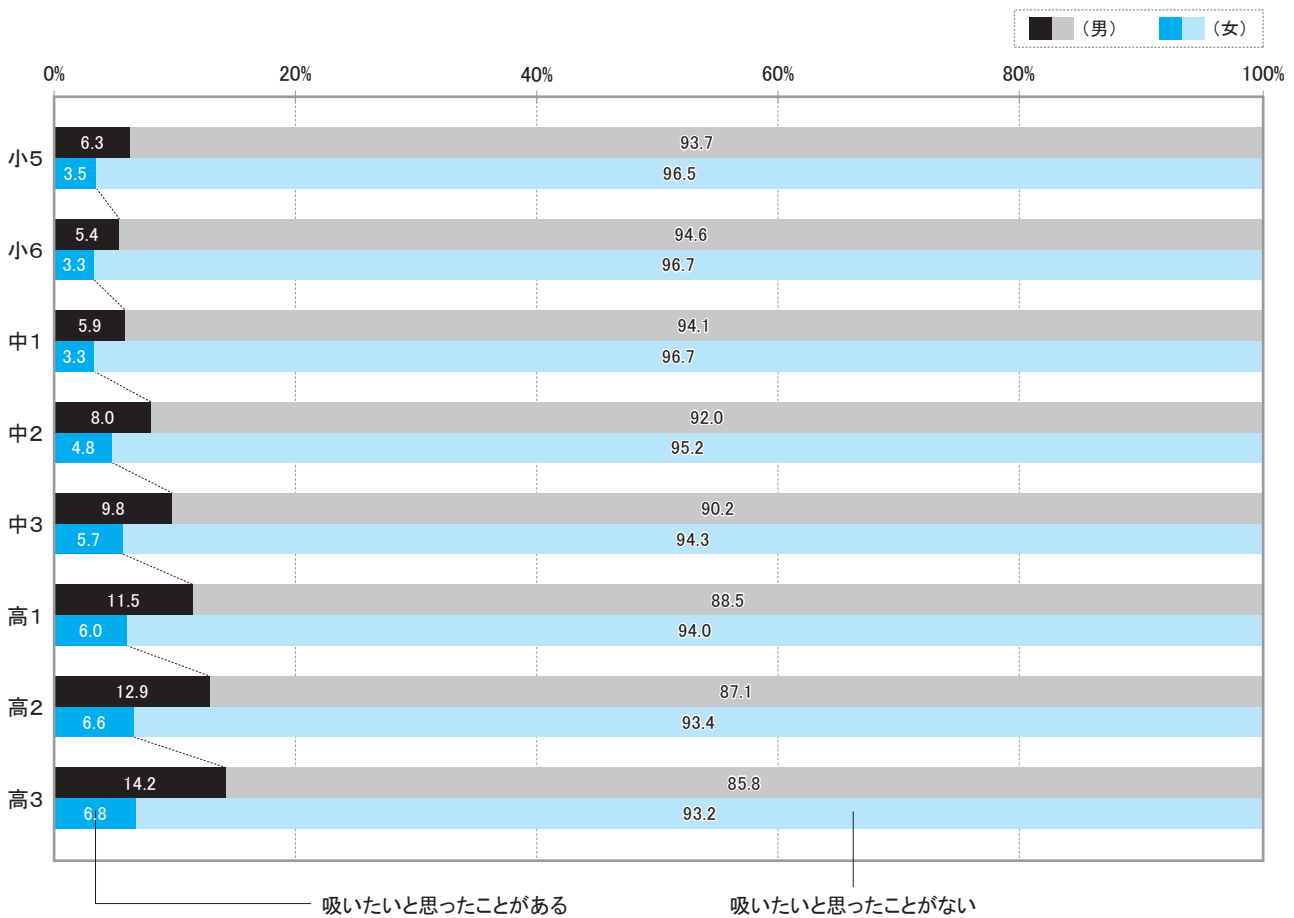


## 2 たばこについての質問

### (1) 喫煙への関心

- たばこを「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年が上がるにつれて高くなった。
- 男女間で比較すると「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合は、すべての学校種・学年で男子の方が女子より高く、男子では高等学校1年生以上では10%を超えていたが、女子ではすべての学校種・学年で10%未満と低かった。

図Ⅱ-2-(1) 喫煙への関心



#### 【参考】

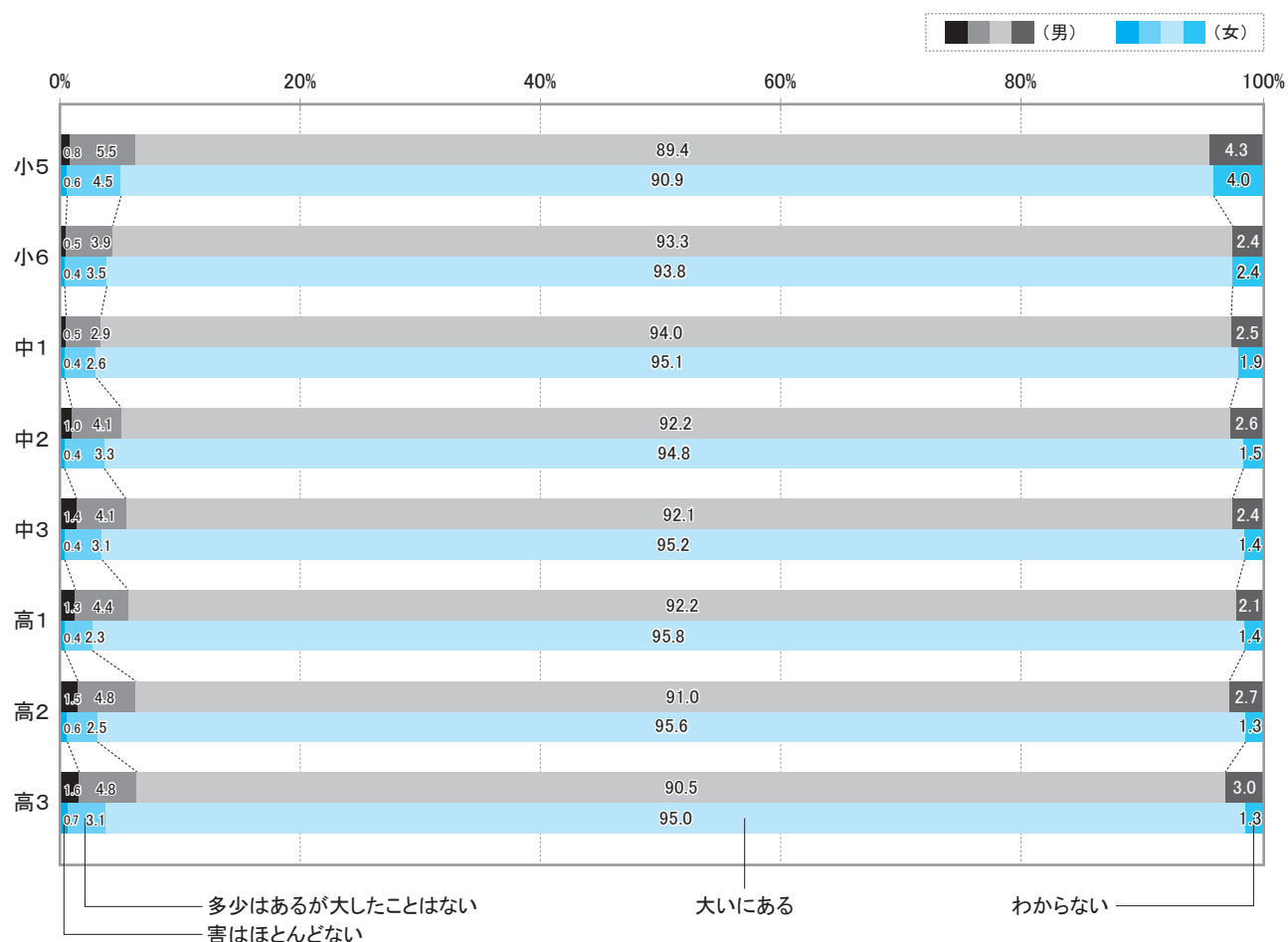
- 平成12年及び平成18年に実施した調査では、回答に「吸いたいと思ったことがある」、「吸いたいと思ったことがない」以外に「考えたことがない」が選択肢として挙げられており、今回の調査結果と単純比較することに留意が必要である。過去の調査における「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合を参考（第2章 p 90【参考3】参照）として示す。
- 本調査では、「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の中には、過去の調査では「考えたことがない」と回答した児童生徒が含まれている可能性があるが、「飲酒への関心」の高い児童生徒の割合を過去の結果と比較する際には過小評価することはないと

考えられる。したがって、男女ともにいずれの学校種・学年においても平成12年、平成18年から平成24年と段階的に「吸いたいと思ったことがある」と回答した児童生徒の割合が下がっていると考えられる。

## (2) 喫煙の健康影響

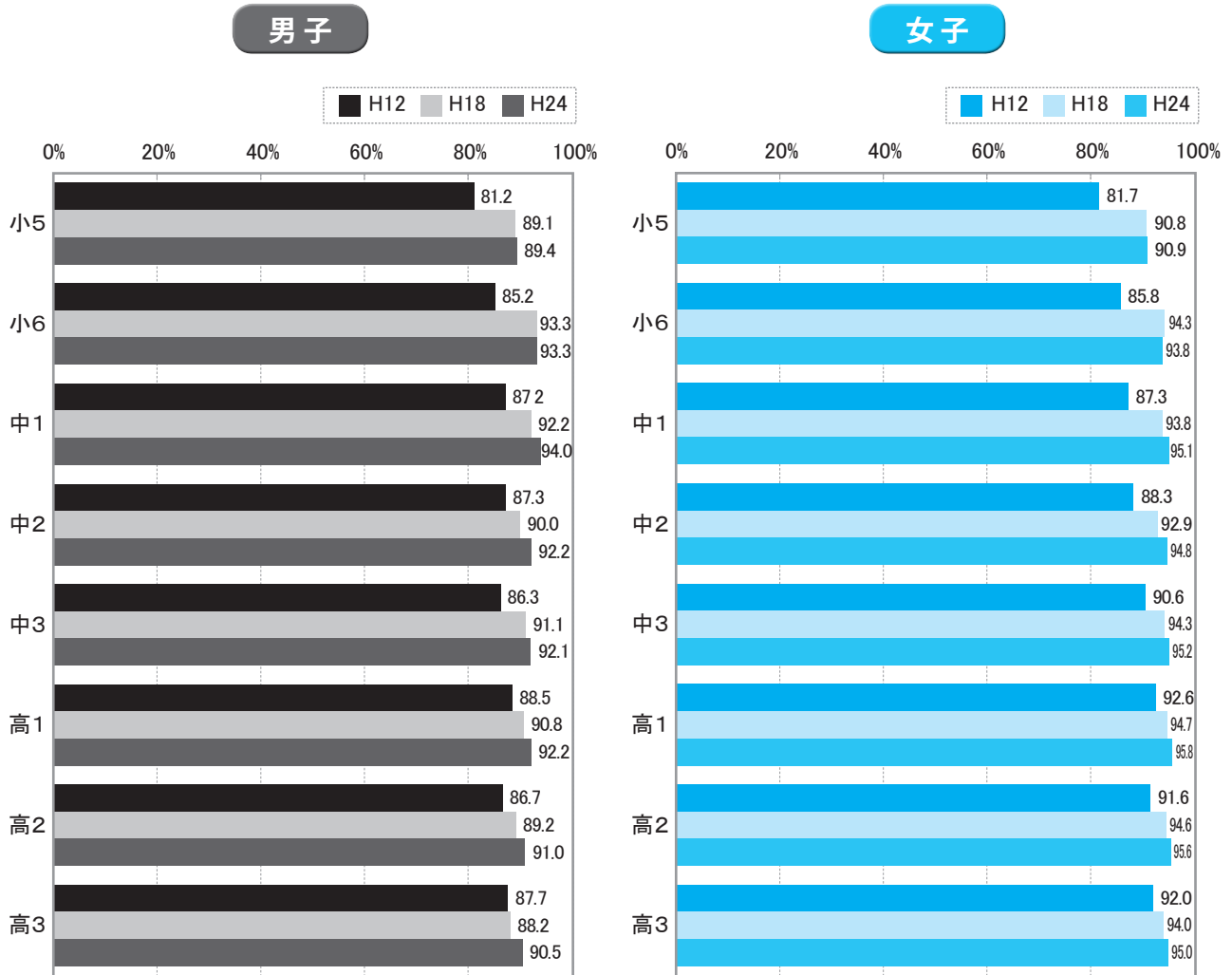
- 他の回答と比較してたばこを吸うと健康に害があるかについて「大いに害がある」と思うと回答した児童生徒の割合は、男女ともにいずれの学校種・学年でも最も高かった。男女間で比較すると、すべての学校種・学年で女子の方が男子より高く、女子は中学校1年生以上では概ね95%を超えており、男子でも中学校1年生では94.0%であったが、それ以降学校種・学年が上がるにつれて低下傾向が認められた。
- 「害はほとんどない」と思うと回答した児童生徒の割合は、男女ともにすべての学校種・学年で2%未満と低かった。また、「たいしたことはない」と思うと回答した児童生徒の割合は、小学校5年生男子を除き、男女ともにその他のいずれの学校種・学年でも5%未満であった。

図 II -2-(2)-1 喫煙の健康影響に対する認識



●平成18年の調査結果と比較してたばこを吸うと健康に害があるかについて「大いに害がある」と回答した児童生徒の割合は、概ね男女ともにいずれの学校種・学年においても高くなっていた。

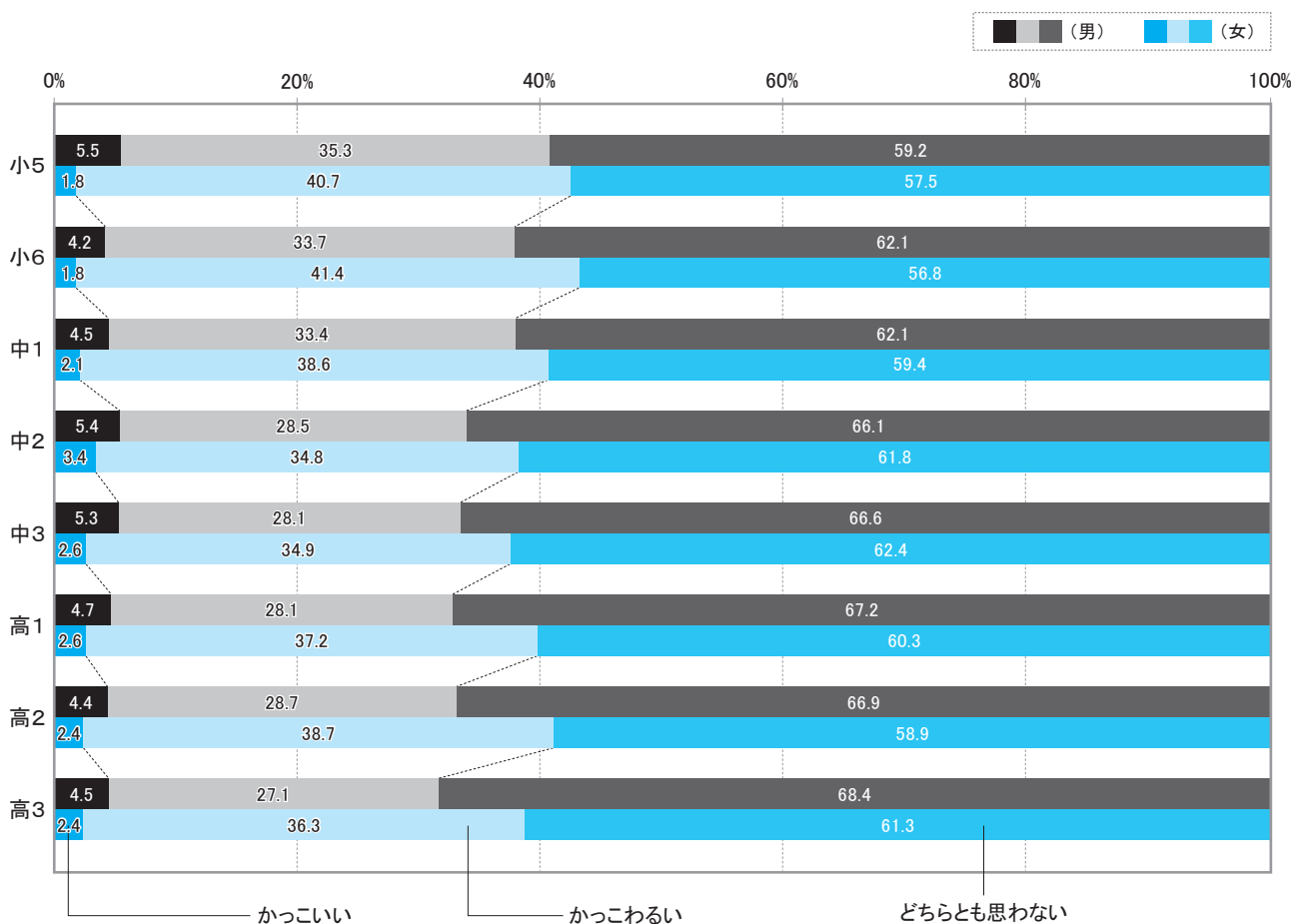
図Ⅱ -2-(2)-2 喫煙は「大いに害がある」と回答した児童生徒の割合



### (3) たばこを吸う人の印象

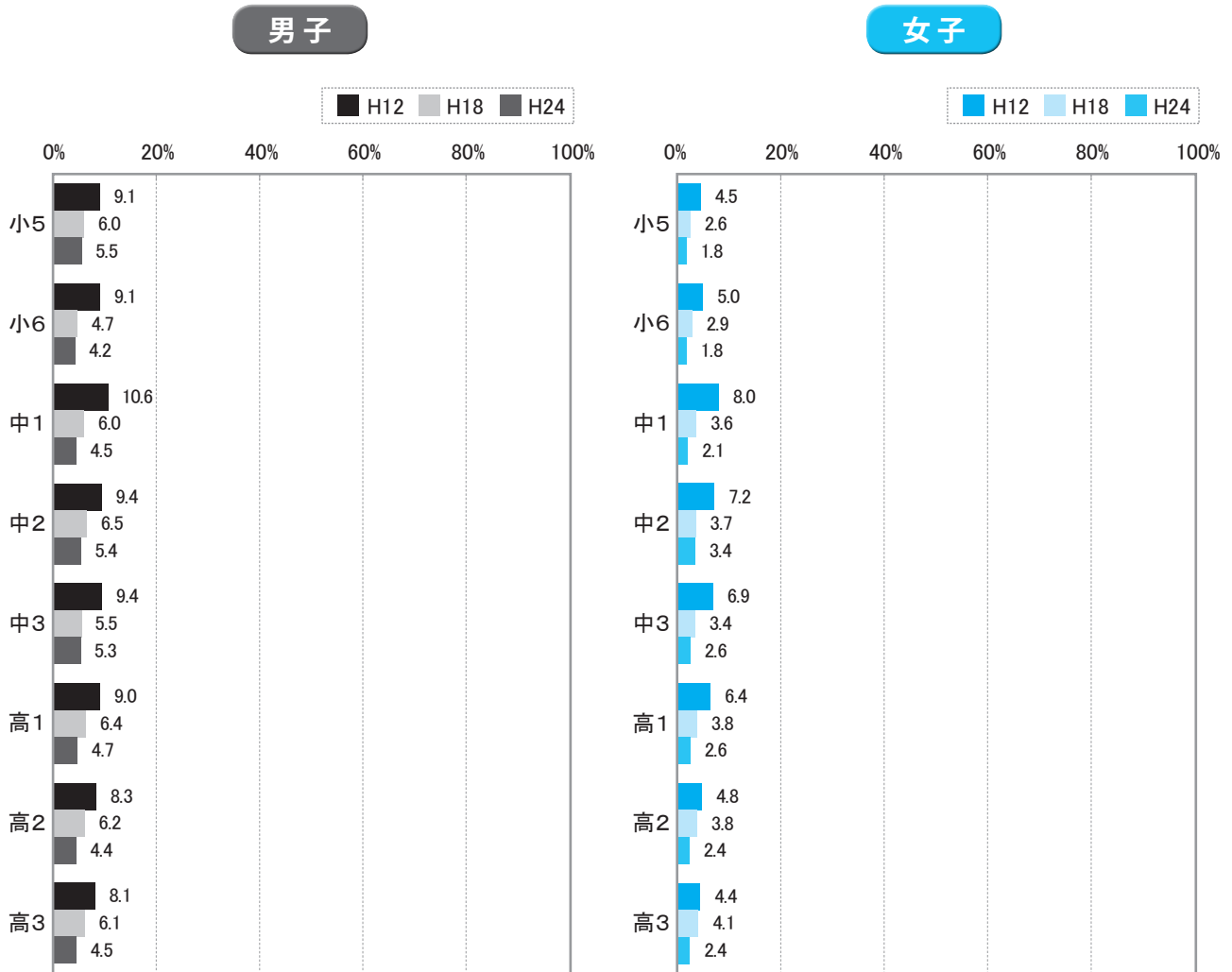
- たばこを吸う人について「かっこいいと思う」、「かっこわるいと思う」と回答した児童生徒の割合と比較して、「どちらとも思わない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともにいずれの学校種・学年においても最も高かった。その割合は、男女ともに学校種・学年が上がるにつれて高くなり、男子では小学校6年生以上、女子では中学校2年生以上で60%を超えていた。また、男女間で比較すると、いずれの学校種・学年で男子の方が女子より高かった。
- 「かっこいいと思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校5年生男子を除き男女ともにいずれの学校種・学年においても5%未満であった。また、男女間で比較すると、いずれの学校種・学年においても男子の方が女子より高かった。
- 「かっこわるいと思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに小学校5年生では35%を超えていたが、学校種・学年が上がるにつれて低下し、男子では中学校2年生以上では30%を下回った。また、男女間で比較すると、いずれの学校種・学年においても女子の方が男子より高かった。

図Ⅱ-2-(3)-1 たばこを吸う人の印象



- たばこを吸う人について「かっこいいと思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともいずれの学校種・学年においても平成12年、平成18年から平成24年と段階的に低下した。

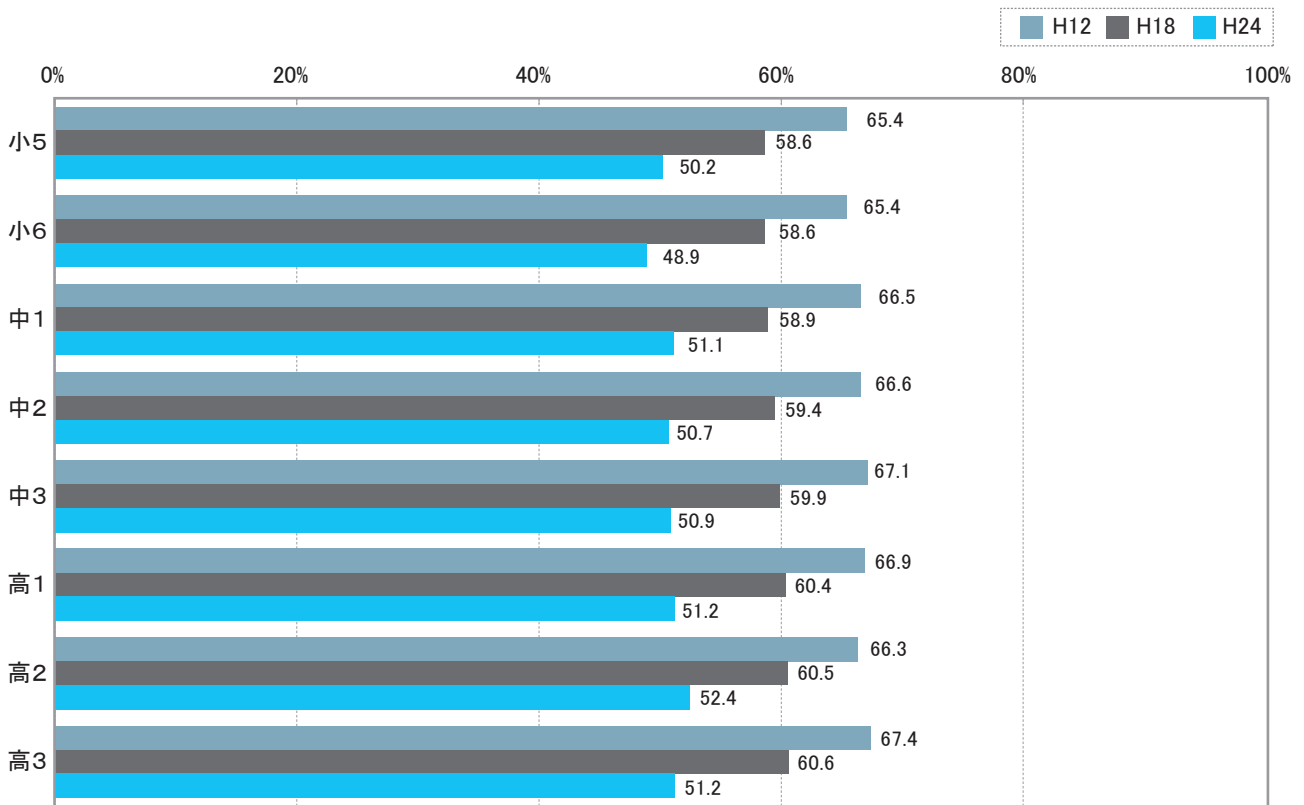
図II -2-(3)-2 「かっこいいと思う」と回答した児童生徒の割合



#### (4) 家族の喫煙

- 児童生徒の男女別で家族でたばこを吸う人の有無の割合に差が認められなかったことから（第2章 p 92 質問10参照）、次ページの図では男女の別なしの結果を示した。
- 「家族でたばこを吸う人がいる」と回答した児童生徒の割合は、学校種・学年間で大きな差が認められず、概ね50%であった。
- 「家族でたばこを吸う人がいる」と回答した児童生徒の割合は、いずれの学校種・学年においても平成12年、平成18年から平成24年と段階的に低下した。

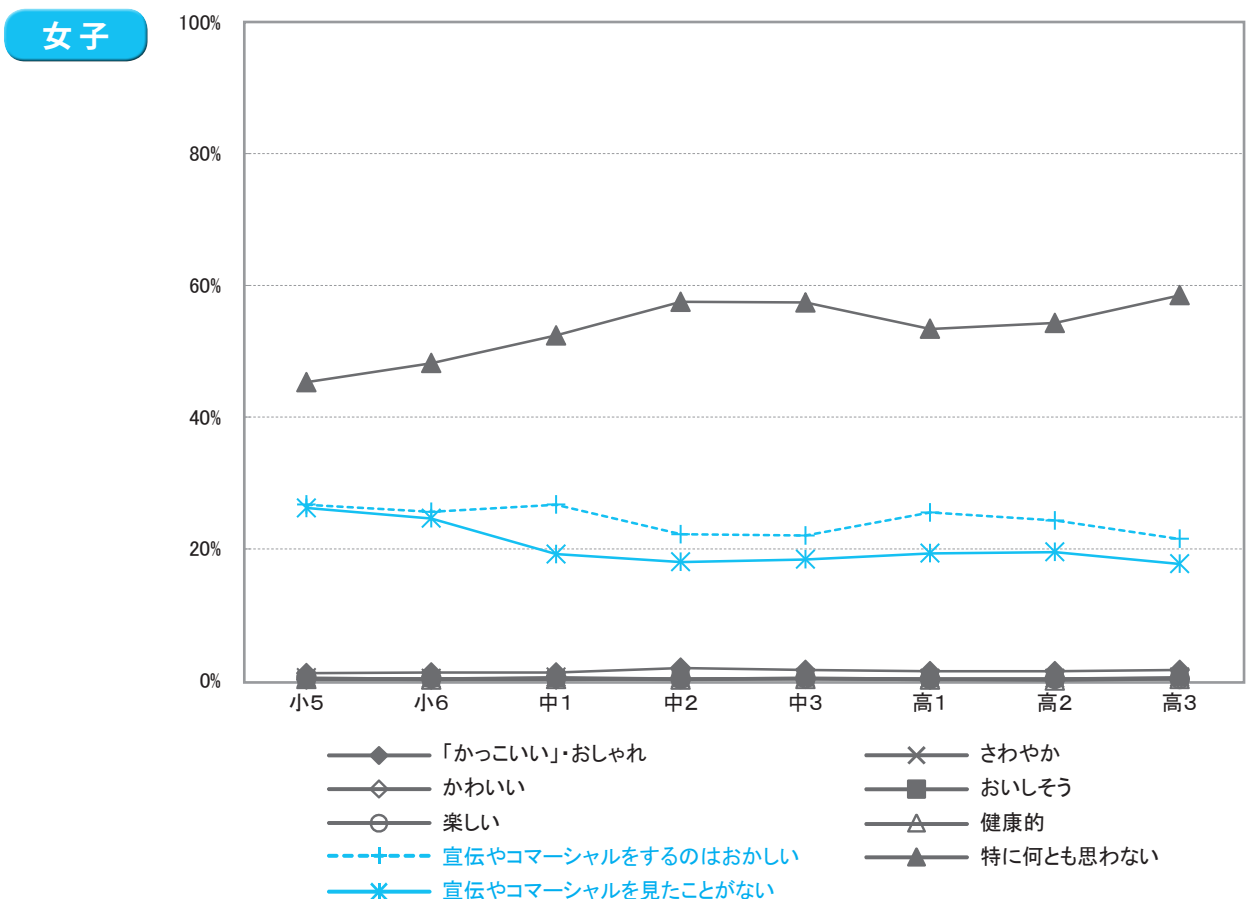
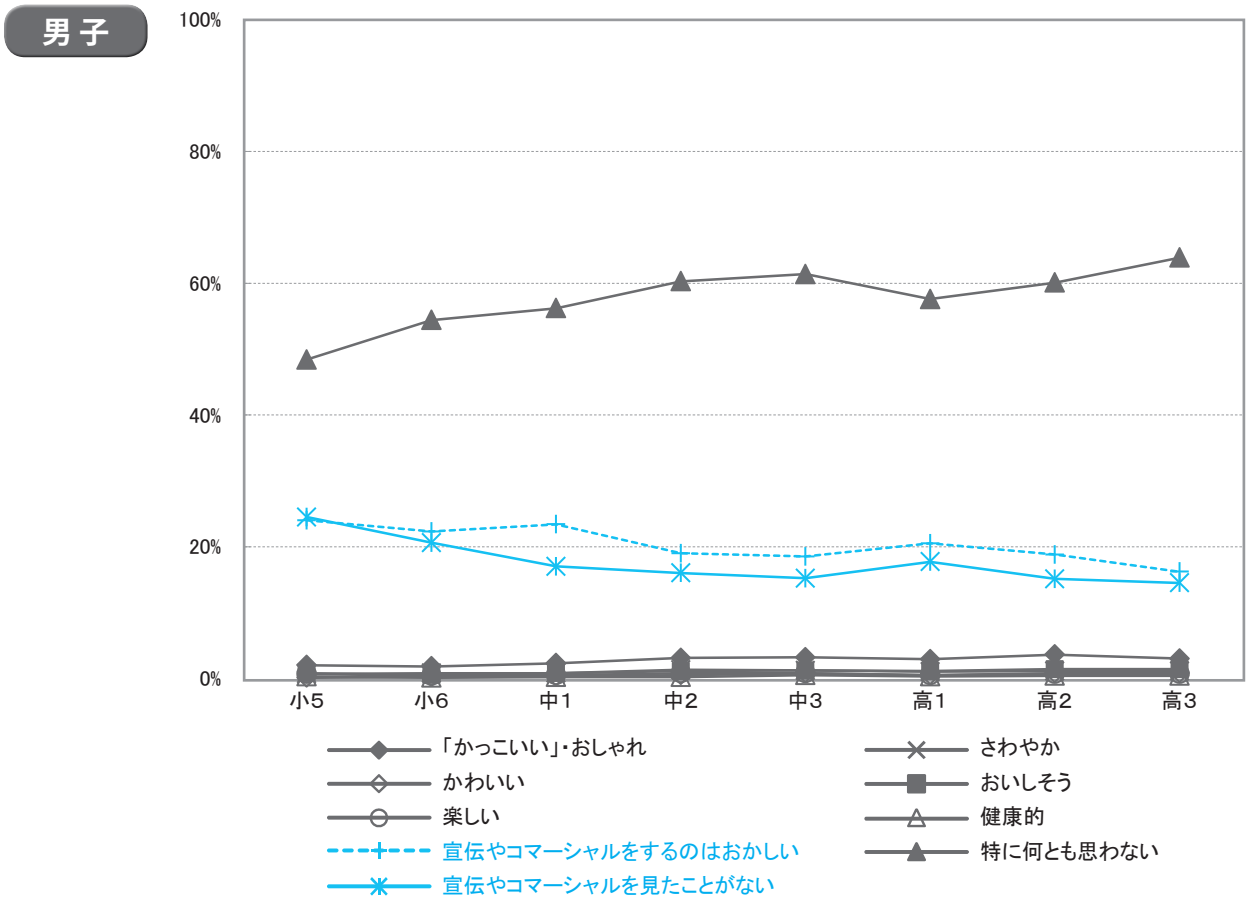
図Ⅱ -2-(4) 「家族でたばこを吸う人がいる」と回答した児童生徒の割合



### (5) たばこの宣伝やコマーシャルの印象

- 他の回答と比較して「なんとも思わない」と回答した児童生徒の割合は、いずれの学校種・学年においても男女ともに最も高かった。また、その割合は、学校種・学年が上がるにつれて高くなった。
- たばこの宣伝やコマーシャルに対して肯定的な印象である「『カッコいい』・おしゃれ」、「さわやか」、「かわいい」、「おいしそう」、「楽しい」、「健康的」と思うと回答した児童生徒の割合は、男女ともにすべての学校種・学年で低かった。なお、その割合は、男子の方が女子より高かった。
- 肯定的な印象の内、「『カッコいい』・おしゃれ」と回答した割合が、男女ともにすべての学校種・学年で最も高く、男子では中学校2年生以降概ね3%を超えていた。
- たばこの宣伝やコマーシャルに対して否定的な印象である「宣伝するのはおかしい」と回答した児童生徒の割合及びたばこの宣伝やコマーシャルを「見たことがない」と回答した児童生徒の割合は、いずれの学校種・学年においても女子の方が男子より高く、男女ともに学校種・学年が上がるにつれて低くなる傾向が認められた。

図 II -2-(5) たばこの宣伝やコマーシャルの印象



【参考】

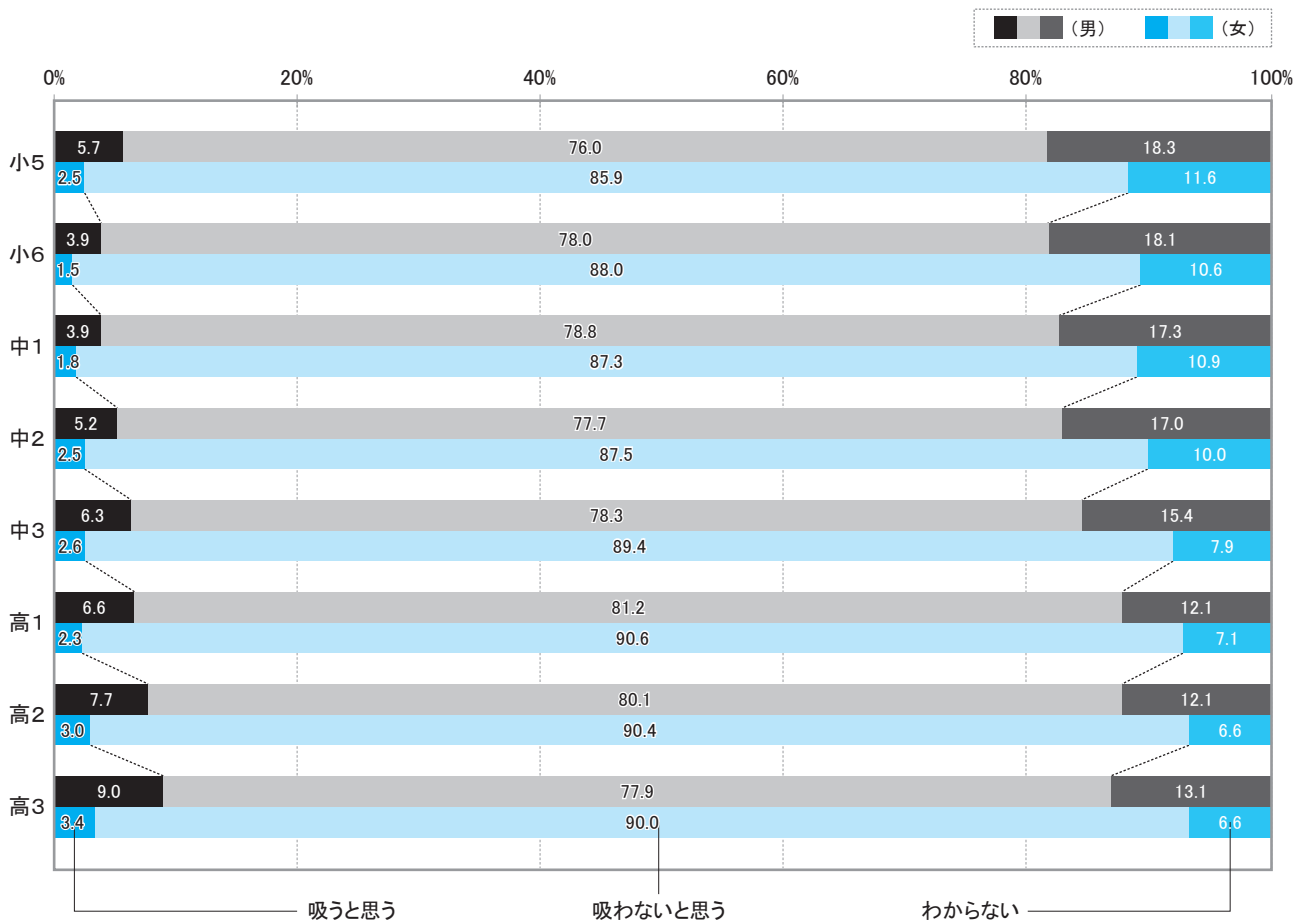
- 平成12年及び平成18年に実施した調査では、質問が「酒やたばこの宣伝やコマーシャルをみてあなたは どう思いますか。」であったが、近年、酒とたばこでは、宣伝やコマーシャルを目にする頻度とそれらから受ける印象が大きく異なると考えられることから、今回の調査では、酒とたばこを分けて質問することとした。また、宣伝やコマーシャルの印象に関する選択肢を増やしている。したがって、今回の調査結果と過去の調査において同じ回答であっても単純比較することはできないことから、過去の調査における酒やたばこの宣伝やコマーシャルの印象に関する結果（第2章 p 88【参考2】参照）を参考として示す。



## （6）将来の喫煙の可能性

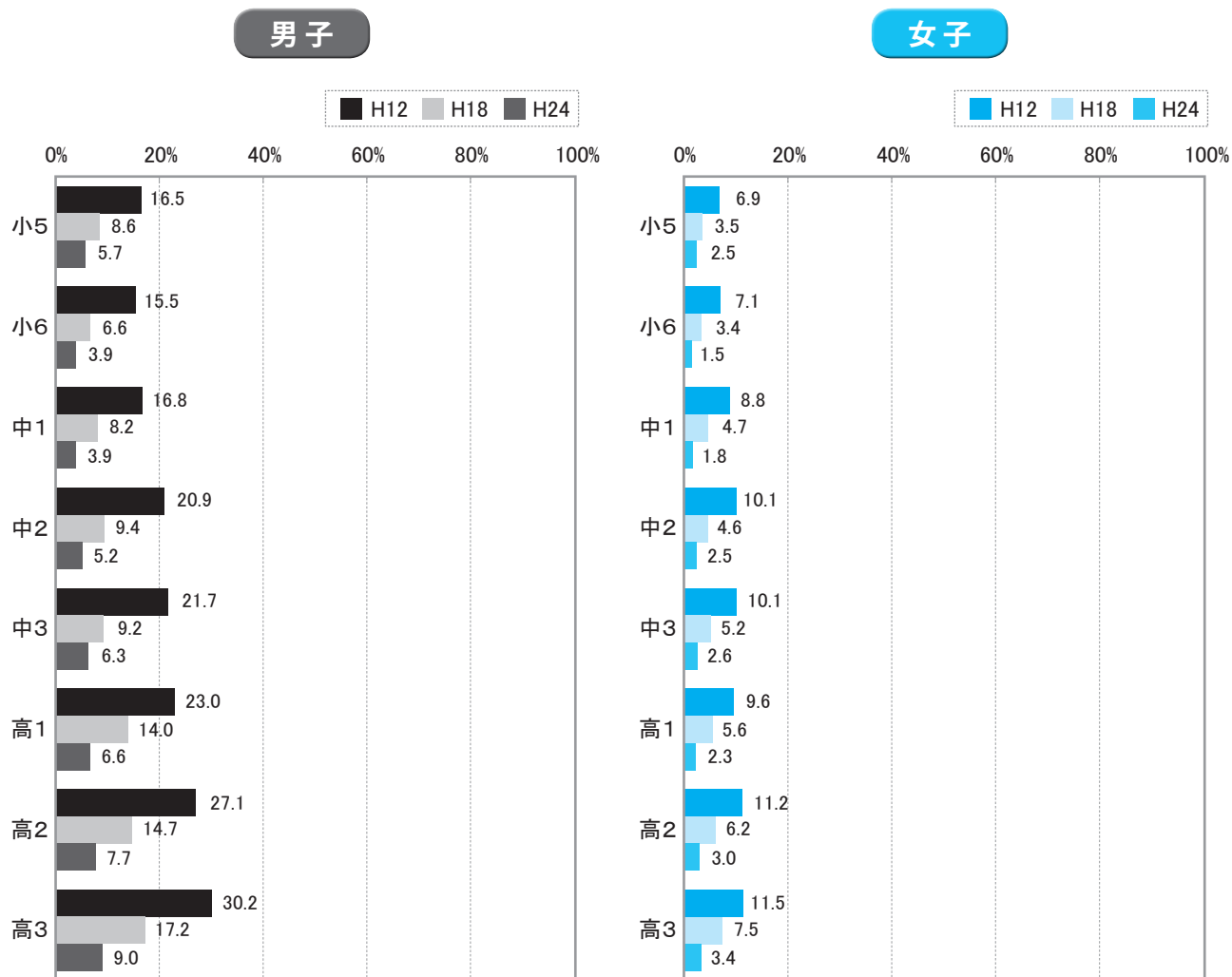
- 他の回答と比較して20歳以上になってもたばこを「吸わないと思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともにすべての学校種・学年で最も高かった。また、その割合は、いずれの学校種・学年においても女子の方が男子より10ポイント程度高かった。
- 「吸うと思う」と回答した児童生徒の割合は、男子では中学校1年生以降学校種・学年が上がるにつれて高くなり、高等学校3年生で9.0%であった。一方、女子でも高等学校3年生で最も高くなったが、校種・学年間で一定の傾向は認められなかった。
- 「わからない」と回答した児童生徒の割合は、男女とも学校種・学年が上がるにつれて低くなった。

図Ⅱ-2-(6)-1 将来の喫煙の可能性



- 「吸うと思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともにいずれの学校種・学年においても平成12年、平成18年から平成24年と段階的に低下した。

図Ⅱ-2-(6)-2 将来「たばこを吸うと思う」と回答した児童生徒の割合

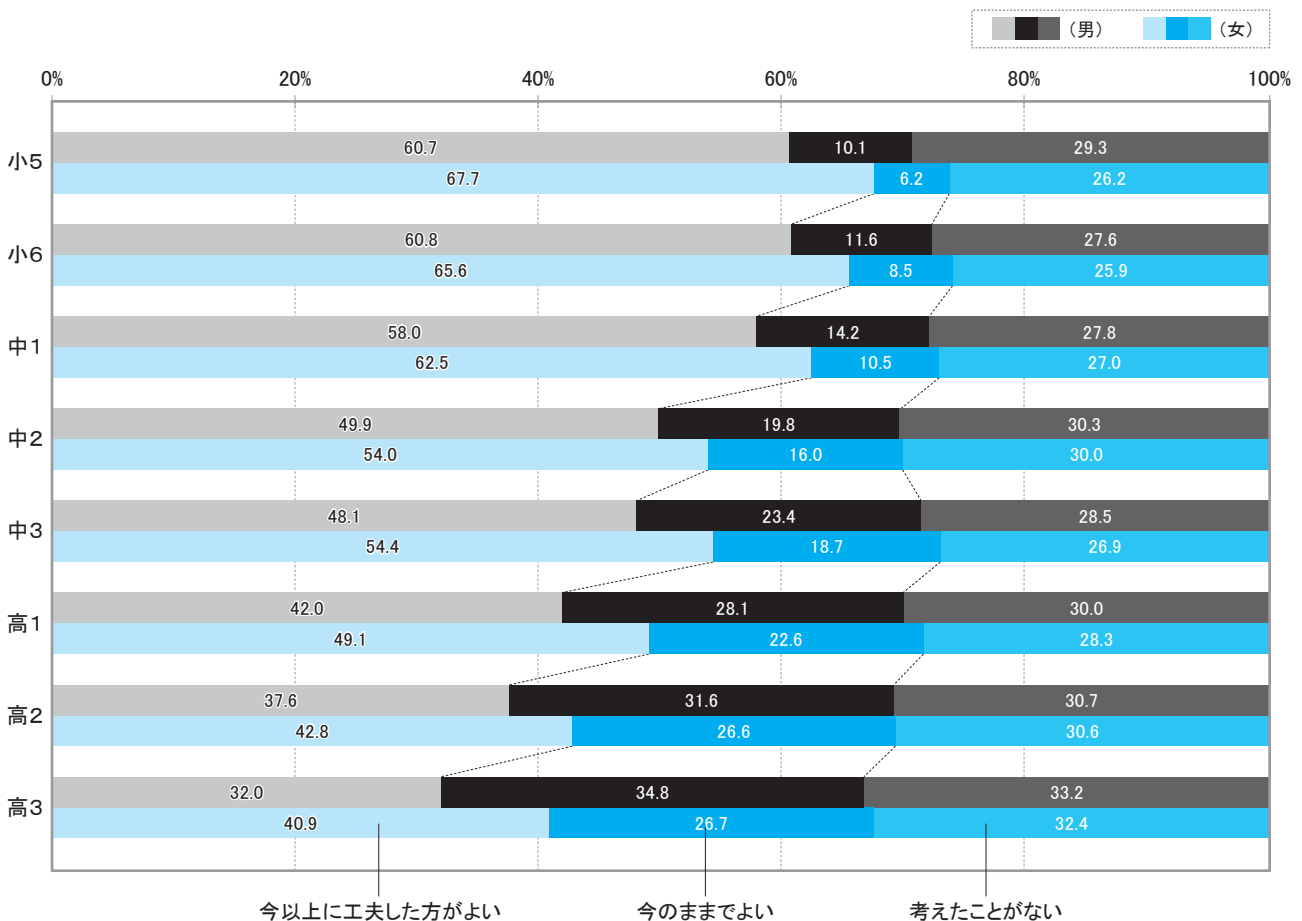


### 3 酒、たばこ共通の質問

#### (1) 酒やたばこの販売についての考え

- 他の回答と比較して酒やたばこの販売について「未成年が買えないように今以上に工夫した方がよい」と思うと回答した児童生徒の割合は、高等学校3年生男子を除いて男女ともにすべての学校種・学年で最も高かった。また、その割合は、いずれの学校種・学年でも女子の方が男子より5ポイント程度高かった。
- 「今以上に工夫した方がよい」と思うと回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年が上がるにつれて低くなり、「今のままでよい」と思うと回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年が上がるにつれて高くなった。
- 「考えたことがない」と回答した児童生徒の割合は、男女間、学校種・学年間で大きな差が認められなかった。

図Ⅱ -3-(1) 酒やたばこの販売についての印象



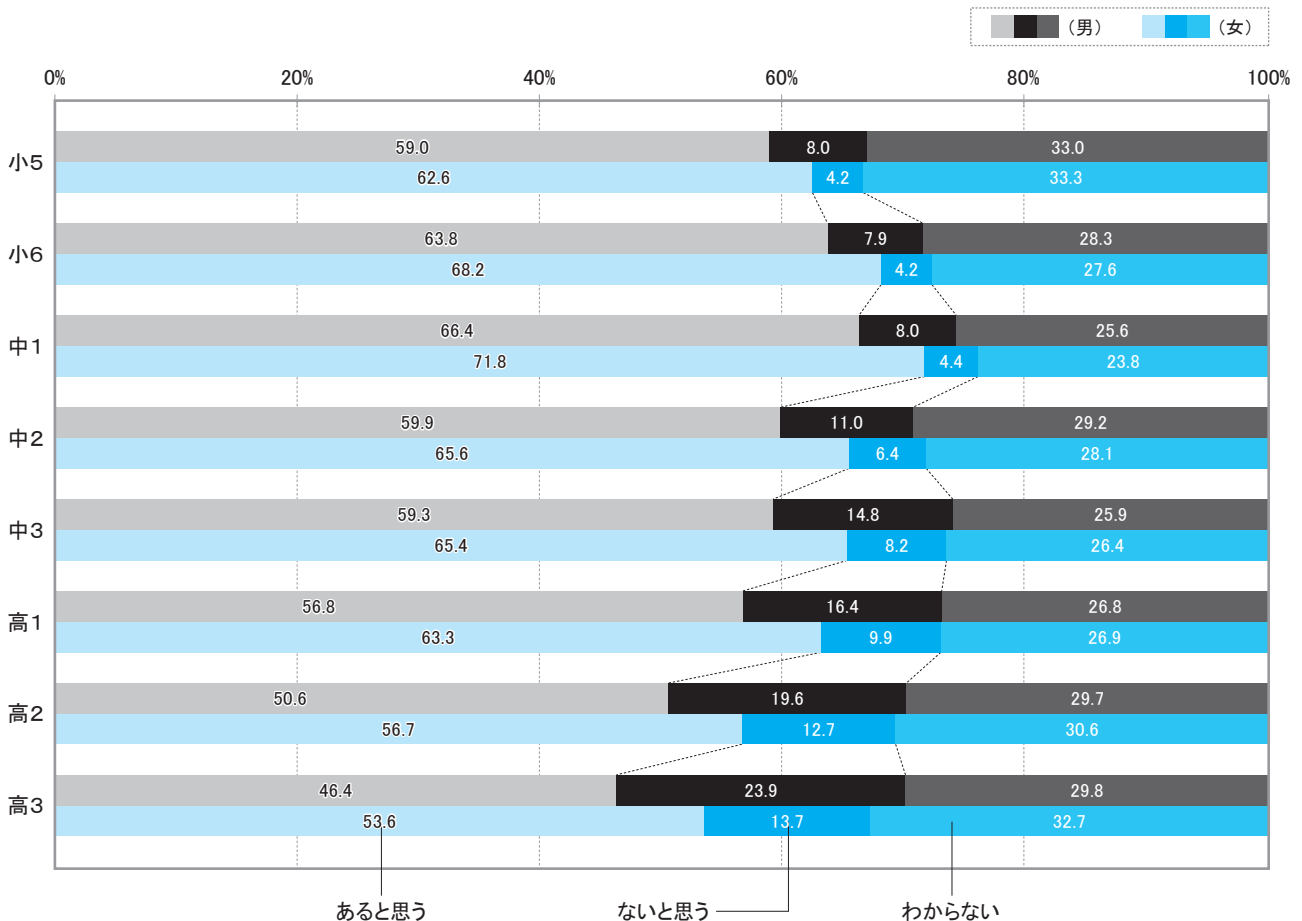
**【参考】**

- 平成12年及び平成18年に実施した調査では、質問が「酒やたばこの自動販売機についてどう思いますか。」であったが、近年、酒とたばこの自動販売機による販売に対して社会的な対策が進められていることから、今回の調査では、自動販売機による販売に限らず酒やたばこの販売全体について質問することとした。また、平成12年及び平成18年に実施した調査では、選択肢に対して複数回答を可としていたが、今回の調査では、単一回答を求めた。したがって、今回の調査結果と過去の調査を比較することはできないことから、過去の調査における酒やたばこの自動販売機の印象に関する結果（第2章 p 95【参考4】参照）を参考として示す。

## （2）喫煙、飲酒が薬物乱用につながる可能性についての考え

- 他の回答と比較して未成年から酒を飲んだり、たばこを吸ったりすることがきっかけとなって薬物乱用につながるものが「あると思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともにすべての学校種・学年で最も高かった。また、その割合は、いずれの学校種・学年でも女子の方が男子より高かった。
- 「あると思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに中学校1年生までは学校種・学年が上がるにつれて高くなり、それ以降低くなった。一方、「ないと思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに学校種・学年が上がるにつれて高くなった。
- 「わからない」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに小学校から中学校にかけて低くなり、高等学校で高くなる傾向が認められた。

図Ⅱ-3-(2)-1 喫煙、飲酒が薬物乱用につながる可能性についての考え



●未成年から酒を飲んだり、たばこを吸ったりすることがきっかけとなって薬物乱用につながるものが「あると思う」と回答した児童生徒の割合は、男女ともに概ねいずれの学校種・学年においても平成12年、平成18年から平成24年と段階的に高くなった。

図Ⅱ -3-(2)-2 喫煙、飲酒が薬物乱用につながる可能性が「あると思う」と回答した児童生徒の割合

